長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	054　－	事業名	地域社会体育事業	担当部課	くらし文化部生涯学習課

基本情報

第5次総合計画・基本方針	✔　文化をみがき、人が輝くまち	会計区分	一般会計
まちづくり行程表・フラッグ	―	予算区分（款 － 項 － 目）	
第6次総合計画・基本目標	✔　誰もがいきいきと安心して暮らせるまち		9-5-1 保健体育費
法定受託事務の有無	―		
その他（関係計画、要綱等）	―		
事業開始の背景、経緯等	スポーツイベントやレクリエーション活動を実施し、家族や仲間との交流を通して、絆を強めることを目標とする。 幅広い年齢層を対象として「歩く、走る、泳ぐ等」といった各種スポーツイベント及び教室を開催する。		

事業目的等

事業内容	（どのような事業なのか） 軽スポーツやファミリースポーツの普及及びレクリエーションスポーツイベント等の開催 年齢層を問わず参加できるスポーツ教室や健康づくり教室の開催や場の提供 競技スポーツの推進
事業対象	（誰、何を対象にしているか） 市民（在勤、在学者を含む）
事業意図	（対象をどのような状態にしたいか） 市民が参加できるスポーツ種目の増加を図り、市民の健康意識の向上や家庭、地域の交流を推進する。

事業を構成する事務事業（B票）

①	社会体育事業	改善・見直し	④	学校プール開放事業	改善・見直し
②	マラソン大会事業	改善・見直し	⑤	愛知万博記念市町村対抗駅伝大会事業	改善・見直し
③	文化スポーツクラブ事業	改善・見直し	⑥		

コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費(A)	千円	予算	11,802	14,574	14,052	14,316	13,959
		決算	11,121	12,714	13,144	12,407	
人件費(B)	千円	決算	3,436	3,430	4,638	8,396	
総コスト(A)＋(B)	千円	決算	14,557	16,144	17,782	20,803	

成果推移

成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
A　スポーツ教室の申込率	%	目標	80.8	82.6	82.8	81.5	84.2
		実績	83.8	81.8	81.1	87.3	
B　マラソン大会の参加者数	人	目標	1,540	1,500	1,500	2,000	2,000
		実績	1,189	1,392	1,760	1,142	
C　学校プール開放参加者数	人	目標	2,300	3,500	2,565	2,442	1,768
		実績	1,424	2,443	2,326	1,684	

【指標の説明】（指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など）

A　スポーツ教室の過去2年間の申込率平均を目指す。

B　平成31年度は、マラソン大会の参加者数2，000人を目指す。

C　学校プール開放事業の1校あたりの参加人数＋5%を目指す。

環境変化

他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	（他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など） 各市町で独自にスポーツイベント等を実施

評価

目標達成状況	（成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など） スポーツ教室の申込率目標81.5%に対して87.3%で、前年度に比べて5.8%上回った。 マラソン大会の参加者数目標2,000人に対し、1,142人で目標値を858人下回った。 学校プール開放参加者数目標2,442人に対し、1,684人で目標値を758人下回った。
過去5年間の振返り	（過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振返り） スポーツ教室の申込率については、概ね目標を達成している。 マラソン大会については、平成28年度から仮装賞を導入し、参加者の増加をはかった。ただし、平成30年度については雨天開催であったため、参加者は減少した。 学校プール開放の参加者数は、平成28年度から1校から2校へ開放箇所を増やしたため増加したが、平成29年度以降は、開放日の気温上昇などに伴い、減少傾向にある。
事務事業全体を見た課題	（構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理） スポーツの多様化やスポーツイベントに求められる考え方も変化しており、本市の地域社会体育事業のあり方について市民ニーズ等把握し、事業展開を図っていく必要がある。

今後

今後の方向性	（事業の成果を高めるための事務事業の方向性） 広く市民のスポーツ及び健康づくりに関するニーズを調査・把握し、参加者の向上を目指す。
中長期の目標	（いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか） 平成３１年度に策定予定の長久手市スポーツ推進計画と実施事業との整合性を図る。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・マラソン大会、学校プール開放（こども分）など、無料の事業について、受益者負担の適正化を検討してください。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	地域社会体育事業	担当部課	くらし文化部生涯学習課	決算書ページ	―
事務事業名	① 社会体育事業	予算区分	9-5-1 保健体育費		
事務事業の期間	事務事業開始年度 平成18年（2006年）	終了（予定）年度	―		

1.事務事業の目的

対象・手段	（誰、何に対し、何をどのように実施しているのか） 市内在住、在勤、在学の方に、市内のスポーツ施設を使用し、スポーツ教室を開催する。
意図	（対象をどのような状態にしたいか） スポーツを楽しむことで、健康で元気な生活を送れるようにする。

2.コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	3,162	3,489	3,135	3,015	3,184
		決算	2,887	2,825	3,153	2,788	

＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞

⑴ スポーツ教室等講師委託	1,616 千円
⑵ 自動車借上料	301 千円
⑶ スポーツ教室等講師報償金	281 千円

3.活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
スポーツ教室の申込率	%	見込	80.8	82.6	82.9	81.5	84.2
		実績	83.8	81.8	81.1	87.3	
		見込					
		実績					

＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞

市内在住、在勤、在学の方に、スポーツを楽しむことで、健康で元気な生活を送れるよう市内のスポーツ施設を使用し、スポーツ教室を開催。教室延べ定員520人に対し454人参加した。

4.事務事業を取り巻く環境変化

（制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など）

スポーツの種目等が多様化し、スポーツに対するニーズも様々なものとなっている。また、健康志向の強いスポーツが増加している。

5.前年度からの改善状況

(1)財政状況

（前年度【予算額】）	（今年度【予算額】）	（増減額）
3,015 千円	3,184 千円	169 千円

(2)前年度の評価状況《参考》

・前年度【今後の方向性】 改善・見直し

・前年度【コメント】

アンケートを行うなど、市民ニーズを把握し、今後の教室の内容について検討していく必要がある。

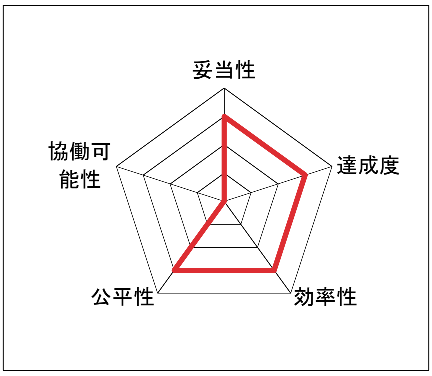
(3)改善状況

（何をどのような状態に改善したのか）

教室参加者に対しアンケートを実施し、結果を講師と共有。開催内容、時期等の検討材料とした。

6.評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	－



【協働可能性について】

(1)市民参加の延べ人数（人）

区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込	―	―	―	―
実績	―	―	―	

(2)協働の状況（30年度(2018)）

（協働で取り組んだこと、評価できない理由など）

市民協働する事業でないため、評価できない。

【活動エピソード】

（活動のエピソード、コメント、特記事項など）

市内在住、在勤、在学の方に、市内のスポーツ施設を使用し、スポーツ教室を２２教室開講し、健康と体力の維持・増進に貢献できた。

【改善ポイント】

（改善が必要なこと、改善の方法など）

市民ニーズを把握し、今後の教室の内容・時期について、引き続き検討していく。

7.今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	地域社会体育事業		担当部課	くらし文化部生涯学習課	決算書ページ	―
事務事業名	②	マラソン大会事業	予算区分	9-5-1 保健体育費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成10年（1998年）	終了（予定）年度	―		

1. 事務事業の目的

対象・手段	（誰、何に対し、何をどのように実施しているのか） 走ることが好きな人を対象に愛・地球博記念公園を使用して新春ふれあいマラソン大会を開催する。
意図	（対象をどのような状態にしたいか） スポーツを楽しむことで、健康で元気な生活を送れるようにするとともに参加者のふれあいの場とする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	777	931	788	1,014	1,061
		決算	747	789	927	894	

＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞

(1)	マラソン大会会場設営委託	459 千円
(2)	手数料	131 千円
(3)	印刷製本費	112 千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
参加者数	人	見込	1,540	1,500	1,500	2,000	2,000
		実績	1,189	1,392	1,760	1,142	
		見込					
		実績					

＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞

走ることが好きな人を対象に愛・地球博記念公園を使用して新春ふれあいマラソン大会を開催した。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

（制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など）

マラソン競技人口の増加により、参加者のマラソン大会に求めるニーズが多様化してきている。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況

（前年度【予算額】）	（今年度【予算額】）	（増減額）
1,014 千円	1,061 千円	47 千円

(2) 前年度の評価状況《参考》

・前年度【今後の方向性】	改善・見直し

・前年度【コメント】

参加者アンケートを初めて実施し、参加者の大半が現イベント内容に満足していることが分かった。そこでは競技性を高めていくよりも、現行のふれあいマラソンとしての内容を高めていくことが「新春ふれあいマラソン大会」の参加者増に繋がるものと考え、その内容を検討していく。
また、参加者が増加することによる運営の体制についても一般ボランティアを取り入れるなど検討していく必要がある。

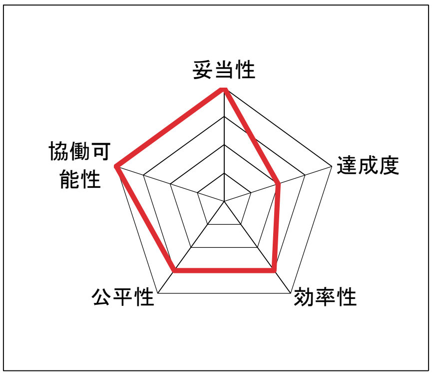
(3) 改善状況

（何をどのような状態に改善したのか）

一般ボランティアを募り、運営体制の強化を図った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	2
効率性	3
公平性	3
協働可能性	4



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数（人）

区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込	―	―	10	10
実績	―	―	10	

(2) 協働の状況（30年度(2018)）

（協働で取り組んだこと、評価できない理由など）

平成30年度から初めて一般ボランティアを募り、当日の大会運営を行った。

【活動エピソード】

（活動のエピソード、コメント、特記事項など）

平成２８年度から市民団体による太鼓の演奏などを取り入れ、参加者同士や運営に関わる人とのふれあいを意識したイベント内容とし、誰でも気軽に参加できるマラソン大会としている。

【改善ポイント】

（改善が必要なこと、改善の方法など）

平成30年度は小雨だったため、参加者数が例年と比べて減少したが、申込者数は年々増加しており、適正な運営のため、運営スタッフ等の増員が必要である。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	地域社会体育事業			担当部課	くらし文化部生涯学習課	決算書ページ	―
事務事業名	③	文化スポーツクラブ事業		予算区分	9-5-1 保健体育費		
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成14年（2002年）	終了（予定）年度	―		

1.事務事業の目的

対象・手段	（誰、何に対し、何をどのように実施しているのか） 児童生徒の学校部活動を地域や行政と共に支援するもの（外部指導者、指導手当の予算化、大会の開催等）
意図	（対象をどのような状態にしたいか） 児童生徒への様々な文化・スポーツを学ぶ機会を提供し、心身の健全な成長を図る。

2.コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	5,405	5,497	5,330	5,430	4,854
		決算	5,402	4,727	4,529	4,166	

＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞

⑴ 文化スポーツクラブ指導員報償金	3,783 千円
⑵ 連盟加入負担金	193 千円
⑶ 損害保険料	190 千円

3.活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
指導者数	人	見込	85	107	96	123	126
		実績	107	96	123	126	
		見込					
		実績					

＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞

児童生徒の学校部活動について外部指導者の登録、指導手当の支援を行うことにより、学校教員の多忙化の軽減や児童への様々な文化・スポーツを学ぶ機会を提供した。

4.事務事業を取り巻く環境変化

（制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など）

部活動顧問の負担軽減のため、今後の部活動のあり方を地域も交えて検討する必要がある。

5.前年度からの改善状況

(1)財政状況

（前年度【予算額】）	（今年度【予算額】）	（増減額）
5,430 千円	4,854 千円	△ 576 千円

(2)前年度の評価状況《参考》

・前年度【今後の方向性】	現状維持

・前年度【コメント】

・小学校の現場では、部活動指導の多くを正規職員で賄っている現状があり、人材確保のため、地域の人材等情報提供を学校に行うことで登録指導者を増やしていく必要がある。

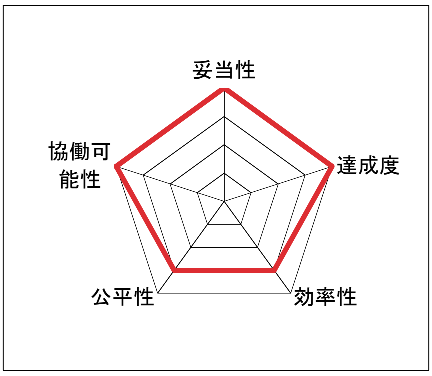
(3)改善状況

（何をどのような状態に改善したのか）

本事業の周知を行うことで、指導者数は１２３人から１２６人に増加した。

6.評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	4



【協働可能性について】

(1)市民参加の延べ人数（人）

区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込	20	30	25	22
実績	30	25	22	

(2)協働の状況（30年度(2018)）

（協働で取り組んだこと、評価できない理由など）

小中学校の部活動指導において、外部指導者による指導を行った。

【活動エピソード】

（活動のエピソード、コメント、特記事項など）

外部指導者の登録により、学校教職員の多忙化の軽減及び指導補助が行えた。

【改善ポイント】

（改善が必要なこと、改善の方法など）

新しい外部指導者の登録を増やしていく必要があるが、新規登録者を確保することが困難である。本事業を市民に対して周知する方法を検討する。

7.今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	地域社会体育事業	担当部課	くらし文化部生涯学習課	決算書ページ	—
事務事業名	④ 学校プール開放事業	予算区分	9-5-1 保健体育費		
事務事業の期間	事務事業開始年度 平成14年（2002年）	終了（予定）年度	—		

1.事務事業の目的

対象・手段	（誰、何に対し、何をどのように実施しているのか） 市民に対し、８月の夏休み期間中に長久手小学校及び南小学校のプールを開放する。
意図	（対象をどのような状態にしたいか） 市民の体力増進・泳力向上と夏休みの地域・親子のコミュニケーションを図る。

2.コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	2,213	4,512	4,524	4,570	4,570
		決算	1,965	4,225	4,303	4,372	

＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞

⑴ 学校プール開放管理委託	4,190 千円
⑵ 消耗品費	182 千円
⑶	千円

3.活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
参加人数	人	見込	2,300	3,500	2,565	2,442	1,768
		実績	1,424	2,443	2,326	1,684	
		見込					
		実績					

＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞

市民に対し、８月の夏休み期間中に市民の健康増進と体力づくりを目的として長久手小学校及び南小学校のプールを開放し、長久手小学校1,012人、南小学校672人の参加があった。

4.事務事業を取り巻く環境変化

（制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など）

平成２７年度までは長久手小学校１校での開放だったが、平成２８年度からは、長久手小学校と南小学校の２校を開放し、利用者が参加しやすい状況とした。

5.前年度からの改善状況

(1)財政状況

（前年度【予算額】）	（今年度【予算額】）	（増減額）
4,570 千円	4,570 千円	0 千円

(2)前年度の評価状況《参考》

・前年度【今後の方向性】	改善・見直し

・前年度【コメント】

広報やHPによりPRのみでなく、チラシを作成し、学校配布を行うなど、ＰＲ方法を見直す必要がある。

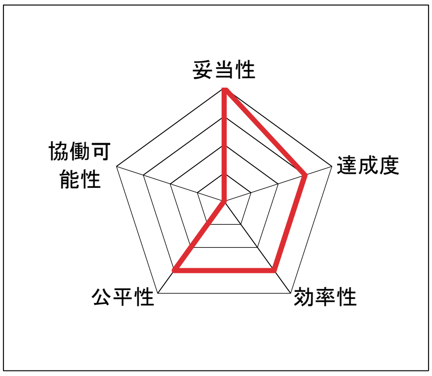
(3)改善状況

（何をどのような状態に改善したのか）

チラシを作成し、子供が多く集まる市内の児童館等へ配布した。

6.評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	－



【協働可能性について】

(1)市民参加の延べ人数（人）

区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込	—	—	—	—
実績	—	—	—	

(2)協働の状況（30年度(2018)）

（協働で取り組んだこと、評価できない理由など）

市民協働する事業でないため、評価できない。

【活動エピソード】

（活動のエピソード、コメント、特記事項など）

南小学校の工事の関係で例年よりも開放日数が減少したこと、及び開放日の気温上昇に伴い、昨年度と比較し、参加者が大幅に減少した。

【改善ポイント】

（改善が必要なこと、改善の方法など）

参加人数が年々減少傾向にある。暑さ対策の実施及び開放日数の増加を検討する必要がある。

7.今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	地域社会体育事業	担当部課	くらし文化部生涯学習課	決算書ページ	―
事務事業名	⑤ 愛知万博記念市町村対抗駅伝大会事業	予算区分	9-5-1 保健体育費		
事務事業の期間	事務事業開始年度　平成18年（2006年）	終了（予定）年度	―		

1. 事務事業の目的

対象・手段	（誰、何に対し、何をどのように実施しているのか） 市内在住、在勤、在学、小・中・高生で構成する県内５４市町村の代表者が、モリコロパークで行う愛知駅伝にて順位を競う。 　市部門については、全３８市である。
意図	（対象をどのような状態にしたいか） 　市民に市町村の交流や広域で行うスポーツに親しんでもらうとともに市内の長中距離競技レベルの向上を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	245	145	275	287	290
		決算	120	148	232	187	

＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞

(1) 食料費	58 千円
(2) 愛知駅伝市代表選手出場記念品	45 千円
(3) 選手控え用テント借用料	38 千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
市部門の順位向上	位	見込	32	28	28	20	20
		実績	29	33	20	25	
		見込					
		実績					

＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞

　市内在住、在勤、在学、小・中・高生で構成する県内５４市町村の代表者がモリコロパークで順位を競う愛知駅伝で、市内の長中距離競技レベルの向上を図り、順位は前年度と比べ下がったが、タイムは過去最高を記録した。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

（制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など）

　平成２７年度に長久手市体育協会に陸上部が発足し、選手の指導が行われている。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況

（前年度【予算額】）	（今年度【予算額】）	（増減額）
287 千円	290 千円	3 千円

(2) 前年度の評価状況《参考》

・前年度【今後の方向性】	現状維持

・前年度【コメント】

・順位上昇のため、競技人口や小・中学生の年代から育成を行い、選手層を厚くすることが必要である。
・十分な練習が行える場所の確保が必要である。

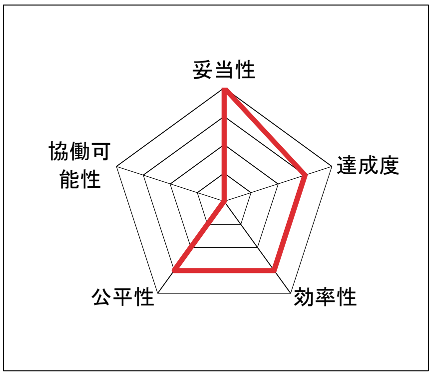
(3) 改善状況

（何をどのような状態に改善したのか）

　平成２７年度から長久手市体育協会の中に発足した陸上部が個人の目標タイムなどを設定した練習方法など確立したことから、選出された選手の個々の能力が上昇し、総合力が上がった。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	－



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数（人）

区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込	―	―	―	―
実績	―	―	―	

(2) 協働の状況（30年度(2018)）

（協働で取り組んだこと、評価できない理由など）

市民協働する事業でないため、評価できない。

【活動エピソード】

（活動のエピソード、コメント、特記事項など）

　平成１７年度に開催された愛知万博を記念して、翌平成１８年度から県内５４市町村が参加し開催されている駅伝で、年齢別の選手が選出されるため、老若男女で楽しめる大会である。

【改善ポイント】

（改善が必要なこと、改善の方法など）

安全が確立された練習場所の確保が課題であり、屋内等も含めて検討する。

7. 今後の方向性

改善・見直し